

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

SciCan Ltd.

バージョン番号:1.1

OSHA HazCom標準（2012年）およびWHIMS 2015要件に準拠した安全データシート

発行日:2024年10月16日

印刷日:2024年10月16日

S.GHS.USA.CAN.EN

第1項 識別

製品識別子

製品名	HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）
同義語	なし
その他の識別手段	なし

化学物質の使用に関する推奨事項および使用制限

特定された関連用途	ハイドリム自動器具処理装置用洗浄剤
-----------	-------------------

化学物質製造者、輸入者、またはその他の責任者名、住所、電話番号

登録会社名	SciCan Ltd.
住所	1440 Don Mills Road Toronto Ontario M3B 3P9 Canada
電話	+1 416 445 1600
ファックス	+1 416 445 2727
ウェブサイト	https://www.scican.com/
Eメール	customerservice@scican.com

緊急時の電話番号

協会および団体	InfoTrac	
緊急時の電話番号	1-800-535-5053	
その他の緊急電話番号	なし	

第2項 危険性の特定

物質または混合物の分類

分類	重篤な眼損傷/眼刺激性 カテゴリー2、急性毒性（経口） カテゴリー4
----	------------------------------------

ラベル要素

危険性ピクトグラム	
-----------	---

シグナルワー	警告
--------	----

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

危険性ステートメント

H302	飲み込むと有害。
H319	深刻な目の炎症を引き起こします。

他に分類されない危険有害性

該当なし

注意事項 予防

P264	取り扱い後は手をよく洗ってください。
P270	本製品の使用中は、飲食や喫煙をしないでください。
P280	保護眼鏡を着用してください。

注意事項 対応

P301+P312	飲み込んだ場合: 気分が悪くなった場合は、毒物情報センターまたは医師に連絡してください。
P330	口をすすいでください。
P305+P351+P338	目に入った場合:数分間、水で注意深く洗ってください。コンタクトレンズを着用している場合は、外すのが容易であれば外してください。すすぎを続けてください。
P337+P313	目の炎症が続く場合:医師の診断を受けてください。

注意事項 保管

該当なし

注意事項 廃棄

P501	内容物および容器は、地方自治体の規定に従って廃棄してください。
------	---------------------------------

第3項 成分表示 / 原材料情報

物質

混合物の成分については、以下の項目をご参照ください。

混合物

CAS番号	%[重量]	名称
14860-53-8	5-10	(1-ヒドロキシエチリデン) ビスホスホン酸テトラカリウム
1300-72-7	5-10	キシレンスルホン酸ナトリウム
2687-94-7	1-5	1-オクチル-2-ピロリドン

第4項 応急処置

応急処置の説明

目への接触	本製品が目に入った場合： ▶ 直ちにまぶたを開いた状態にし、流水で目を洗浄し続けてください。 ▶ まぶたを開いて眼球から離し、時折上まぶたと下まぶたを持ち上げてまぶたを動かすことにより、目を十分に洗浄できるようにします。 ▶ 炎症が生じたり続く場合は、医師の手当てを受けてください。
-------	--

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

皮膚への接触	皮膚や毛髪に接触した場合： ▶ 流水で皮膚と髪を洗ってください。
吸入	▶ 特に応急処置はありません。
摂取	▶ アドバイスが必要な場合は、直ちに毒物情報センターまたは医師に連絡してください。 ▶ 飲み込んだ場合は嘔吐させないでください。 ▶ 嘔吐がある場合は、患者の体を前傾させるか左側臥位（可能であれば頭部を下にした姿勢）とし、気道確保と誤嚥を防いでください。 ▶ 患者を注意深く観察してください。 ▶ 眠気や意識が低下している（すなわち意識がなくなっている）兆候のある人には、決して水分を飲ませないでください。 ▶ 口をすすぐために水を与え、その後ゆっくりと負傷者が楽に飲める程度に水分を飲ませてください。

急性および遅発性の最も重要な症状と影響

第11項を参照

緊急の医療処置や特別な治療が必要な場合の表示

対症療法を行ってください。

第5項 消火対策

消火剤

- ▶ 水しぶきや霧。
- ▶ 泡。
- ▶ ドライケミカルパウダー。
- ▶ BCF（規制が許可する場合）。
- ▶ 二酸化炭素。

基材または混合物から生じる特別危険性

火の不調和	不明
-------	----

消防士のための特別な保護具と注意事項

消火活動	▶ 消防隊に通報し、場所と危険の内容を伝えます。 ▶ 呼吸装置付きの全身保護衣を着用してください。 ▶ こぼれた液が排水溝や水路に流入しないよう、あらゆる手段で阻止してください。 ▶ 微細な噴霧状の水を放水して火災を制御し、隣接区域を冷却します。 ▶ 液体プールへの水の噴霧は避けてください。 ▶ 熱いと思われる容器には 近づかないでください 。 ▶ 安全な位置から水を噴霧して、火にさらされた容器を冷却します。 ▶ 安全であれば、容器を火の通り道から離してください。
火災/爆発の危険性	▶ 可燃性。 ▶ 熱や炎にさらされるとわずかに火災の危険性があります。 ▶ 加熱により膨張や分解が起こり、容器が激しく破裂することがあります。 ▶ 燃焼時に刺激性・有毒ガスを発生することがあります。 ▶ 刺激性の煙を発生する場合があります。 ▶ 可燃性物質を含むミストは爆発する可能性があります。 有毒ガスを発生する場合があります。 腐食性ガスを発生する場合があります。

第6項 漏洩時の対応措置

個人的な注意事項、保護具、緊急時の手順

第8項を参照

環境に関する注意事項

第12項を参照

封じ込めおよび清掃のための方法と材料

軽微な流出	- すべての着火源を取り除いてください。 - こぼれたものは直ちに清掃してください。 - 蒸気を吸入したり、皮膚や目に触れないように注意してください。 - 保護具を使用し、物質との個人的接触を管理してください。 - 流出物を砂、土、不活性物質またはパーミキュライトで封じ込め、吸収させます。 - 拭き取ってください。
重大な流出	危険度を和らげます。 - 人員を退避させ、風上に移動してください。 - 消防隊に通報し、場所と危険の内容を伝えます。 - 呼吸用保護具と保護手袋を着用してください。 - こぼれた液が排水溝や水路に流入しないよう、あらゆる手段で阻止してください。 - 禁煙、裸火および発火源禁止。 - 換気を増やします。 - 安全であれば流出を止めます。 - 流出物を砂、土またはパーミキュライトで封じ込めます。 - 回収可能な製品をリサイクル用にラベルの貼られた容器に集めます。 - 残った製品を砂、土またはパーミキュライトで吸収します。 - 固形残渣を回収し、廃棄用にラベルを貼ったドラム缶に密封します。 - エリアを洗浄し、排水溝への流出を防ぎます。 - 排水溝や水路が汚染された場合は、救急隊に連絡してください。

個人用保護具に関するアドバイスは、SDSの第8項に記載されています。

第7項 取り扱いおよび保管

安全な取り扱いのための注意事項

安全な取り扱い	- 吸入を含め、すべての個人的な接触を避けてください。 - 暴露の危険性がある場合は、保護具を着用してください。 - 換気の良い場所で使用してください。 - 窪みや溜まり場での滞留を防いでください。 - 喫煙、裸火および発火源を避けてください。 - 不適合物質との接触を避けてください。 - 取り扱い中は、飲食または喫煙をしないでください。 - 使用しないときは、容器をしっかりと密閉しておいてください。 - 容器の物理的損傷を避けてください。 - 取り扱い後は必ず石鹸と水で手を洗ってください。 - 作業着は他の衣類と分けて洗濯してください。 - 適切な職業上の作業慣行を用ってください。 - このSDSに記載されている製造者の保管および取り扱いに関する推奨事項を遵守してください。 - 安全な労働条件を確保するため、設定された暴露基準に照らし合わせて、定期的に大気の確認を行ってください。 - 材料で濡れた衣類を皮膚に接触させないでください。
その他の情報	- 元の容器に保管してください。 - 容器はしっかりと密閉しておいてください。 - 禁煙、裸火および発火源禁止。 - 涼しく乾燥した風通しの良い場所に保管してください。 - 混触危険物質や食品容器から離して保管してください。 - 容器を物理的損傷から保護し、漏れがないか定期的に点検してください。 - このSDSに記載されている製造者の保管および取り扱いに関する推奨事項を遵守してください。

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

安全な保管条件（不適合性を含む）

適切な容器	▶ メーカー推奨の包装。 ▶ すべての容器に明確なラベルが貼られ、漏れがないことを確認してください。
保管不適合性	不明

第8項 曝露管理および個人防護

制御パラメータ

職業曝露限界値（OEL）

成分データ

緊急制限値

成分	元のIDLH	改訂IDLH
（1-ヒドロキシエチリデン）ビスホスホン酸テトラカリウム	なし	なし
キシレンスルホン酸ナトリウム	なし	なし
1-オクチル-2-ピロリドン	なし	なし

職業曝露バンド化

成分	職業曝露バンド等級	職業曝露バンド限界値
（1-ヒドロキシエチリデン）ビスホスホン酸テトラカリウム	E	≤ 0.01 mg/m³ 以下
キシレンスルホン酸ナトリウム	E	≤ 0.01 mg/m³ 以下
1-オクチル-2-ピロリドン	C	> 1～≤10 ppm (parts per million)
注釈:	職業曝露バンド化とは、化学物質の毒性と曝露に伴う有害な健康影響に基づき、化学物質を特定の 카테고리またはバンドに分類するプロセスです。このプロセスの出力は職業曝露帯域（OEB）であり、作業員の健康を保護すると予想される曝露濃度の範囲に対応します。	

露出制御

8.2.1.適切な工学的管理措置	工学的管理措置は、危険有害性を除去したり、作業者と危険有害性の間にバリアを設けたりするために用いられます。適切に設計された工学的管理措置は、作業者を保護する上で非常に効果的であり、通常は作業者の操作に依存せず、この高いレベルの保護を提供します。 工学的管理措置の基本的な種類は以下の通りです： リスクを低減するために、作業活動やプロセスの方法を変更するプロセス管理。 排出源の囲い込みおよび／または隔離により、選定された危険を作業員から「物理的に」遠ざけ、作業環境において戦略的に空気を「供給」および「除去」する換気。換気は、適切に設計されていれば、空気汚染物質を除去または希釈することができます。換気システムの設計は、使用される特定のプロセスや化学物質、汚染物質に適合したものでなければなりません。 雇用主は、従業員の過剰曝露を防ぐために複数の種類の管理策を講じる必要がある場合があります。 通常の運転条件下では、一般的な排気装置で十分です。特殊な状況下では、局所排気装置が必要になる場合があります。過剰曝露の危険がある場合は、承認された呼吸保護具を着用してください。特殊な状況下では、給気式呼吸器が必要になることがあります。適切な装着は十分な保護を確保するために不可欠です。倉庫や密閉された保管場所では、十分な換気を行ってください。作業場で発生する空気汚染物質はそれぞれ異なる「逃避」速度を有しており、これが汚染物質を効果的に除去するために必要な新鮮な循環空気の「捕捉速度」を決定します。
------------------	--

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

	汚染物質の種類：	対気速度：										
	タンクから蒸発する溶剤、蒸気、脱脂剤など（静止空气中）。	0.25-0.5 m/s (50-100 f/分)										
	エアロゾル、注湯作業からのヒューム、断続的な容器充填、低速コンベア移動、溶接、スプレードリフト、メッキ酸ヒューム、酸洗（活性生成ゾーンに低速で放出される）	0.5-1 m/s (100-200 f/分)										
	直接噴射、浅型ブース内でのスプレー塗装、ドラム充填、コンベア積載、粉碎機粉塵、ガス排出（急激な気流領域への能動的発生）	1-2.5 m/s (200-500 f/分)										
	研削、研磨ブラスト、タンブラリング、高速砥石から発生する粉塵（初速度が高く、非常に高速の空気運動ゾーンに放出される）	2.5-10 m/s (500-2000 f/分)										
各範囲内で、適切な値は以下の通りです：												
<table><tr><td>範囲の下限</td><td>範囲の上限</td></tr><tr><td>1:室内の気流は最小限か、捕捉に有利</td><td>1:部屋の気流の乱れ</td></tr><tr><td>2:毒性が低い、または単なる害悪に過ぎない汚染物質。</td><td>2:毒性の高い汚染物質</td></tr><tr><td>3:断続的で生産量が少ない。</td><td>3:高生産、多使用</td></tr><tr><td>4:大きなフードまたは大きな気団が移動中</td><td>4:小型フード（ローカル制御のみ）</td></tr></table>			範囲の下限	範囲の上限	1:室内の気流は最小限か、捕捉に有利	1:部屋の気流の乱れ	2:毒性が低い、または単なる害悪に過ぎない汚染物質。	2:毒性の高い汚染物質	3:断続的で生産量が少ない。	3:高生産、多使用	4:大きなフードまたは大きな気団が移動中	4:小型フード（ローカル制御のみ）
範囲の下限	範囲の上限											
1:室内の気流は最小限か、捕捉に有利	1:部屋の気流の乱れ											
2:毒性が低い、または単なる害悪に過ぎない汚染物質。	2:毒性の高い汚染物質											
3:断続的で生産量が少ない。	3:高生産、多使用											
4:大きなフードまたは大きな気団が移動中	4:小型フード（ローカル制御のみ）											
単純な理論によれば、単純な排気管の開口部から離れるにつれて空気速度は急速に低下します。速度は一般に、（単純なケースでは）抽出地点からの距離の2乗とともに減少します。したがって、汚染源からの距離を考慮した上で、抽出地点での風速を適宜調整する必要があります。例えば、抽出地点から2メートル離れたタンクで発生した溶剤を抽出する場合、抽出ファンでの風速は最低1〜2 m/秒（200〜400 f/分）でなければなりません。その他の機械的要因により抽出装置内で性能低下が生じるため、抽出システムの設置または使用時には理論上の空気速度を10倍以上の係数で乗算することが不可欠です。												
8.2.2.個人用保護具などの個人保護対策設備												
目と顔の保護	▶ 化学防護ゴーグル。 ▶ コンタクトレンズは特別な危険をもたらす可能性があります。ソフトコンタクトレンズは刺激物を吸収し、濃縮する恐れがあります。作業場や作業ごとに、レンズの着用或使用制限を記載したポリシー文書を作成する必要があります。これには、使用中の化学物質の分類におけるレンズ吸収および吸着に関する検討と、傷害発生実績の説明を含めるべきです。 医療従事者および救急隊員は、その除去方法について訓練を受けるべきであり、適切な装備がすぐに利用可能であるべきです。化学薬品に触れた場合は、直ちに洗眼を開始し、できるだけ早くコンタクトレンズを外してください。レンズは、目の充血や炎症が見られたらすぐに外してください。レンズは、作業者が手をよく洗った後、清潔な環境で外してください。[CDC NIOSH 現行情報速報 59]。											
皮膚の保護	下記の手の保護を参照											
手足の保護	▶ 通常は必要ありません。											
身体の保護	▶ 通常は必要ありません。											
その他の保護	▶ 洗眼器。											

呼吸器の保護

通常は必要ありません。

第9項 物理的および化学的特性

基本的な物理的および化学的特性に関する情報

外観	なし		
物理的状态	液体	相対密度（水 = 1）	1.113
臭気	なし	分配係数 n オクタノール / 水	なし
臭気閾値	なし	自動着火温度 (°C)	なし
pH（供給時）	9.3-9.8	分解温度 (°C)	なし
融点 / 凝固点 (°C)	なし	粘度 (cSt)	なし

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

初期沸点と沸騰範囲 (°C)	なし	分子量 (g/mol)	なし
引火点 (°C)	>93.3	味覚	なし
蒸発率	なし	爆発性	なし
引火性	該当なし	酸化特性	なし
爆発上限 (%)	なし	表面張力 (dyn/cm または mN/m)	なし
爆発下限 (%)	なし	揮発性成分 (%vol)	なし
蒸気圧 (kPa)	なし	ガスグループ	なし
水への溶解度	混和性	溶液としてのpH (1%)	なし
蒸気密度 (空気=1)	なし	VOC g/L	なし

第10項 安定性および反応性

反応性	第7項を参照
化学的安定性	▶ 不適合物質の存在下では不安定。 ▶ 製品は安定しているとみなされます。 ▶ 危険な重合は発生しません。
危険反応の可能性	第7項を参照
避けるべき条件	第7項を参照
不適合材料	第7項を参照
危険な分解生成物	第5項を参照

第11項 毒性情報

毒物作用に関する情報

吸入	この物質は、吸入による健康への悪影響はないと考えられています（動物モデルを用いたEC指令による分類に基づく）。しかしながら、少なくとも他の1つの経路による動物への曝露後に全身性の有害作用が生じていることから、良好な衛生管理上、曝露を最小限に抑え、職業環境においては適切な管理措置を講じることが求められます。
摂取	この物質を摂取すると、口腔内や消化管に化学熱傷を起こす可能性があります。 誤って飲み込むと健康を害する恐れがあります。 陰イオン界面活性剤の摂取は、下痢、腹部膨満感、および時折嘔吐を引き起こす可能性があります。
皮膚への接触	皮膚への接触は（EC指令に基づく分類において）健康への有害な影響があるとは考えられていません。ただし、傷口、病変部、擦過傷から侵入した場合、本物質は依然として健康被害を引き起こす可能性があります。 陰イオン界面活性剤は、皮膚の発赤や痛み、発疹を引き起こす可能性があります。ひび割れ、はがれ、水ぶくれが生じることがあります。 切り傷、擦り傷、病変などから血流に入り込むと、有害な影響を及ぼす全身性の傷害を引き起こす可能性があります。材料を使用する前に皮膚を検査し、外部損傷がある場合は適切に保護されていることを確認してください。
目	この物質は直接接触すると目に化学火傷を引き起こす可能性があります。蒸気や霧は非常に刺激が強い場合があります。この物質が目に着した場合、重度の目の障害を引き起こします。 高濃度の陰イオン界面活性剤に直接目が触れると、角膜に深刻な損傷を与えることがあります。低濃度の場合、不快感、過剰な血流、角膜の混濁や腫れを引き起こすことがあります。回復には数日かかる場合があります。
慢性	腐食性物質への反復または長期間の曝露は、歯の浸食、口腔内の炎症性および潰瘍性変化、ならびに顎骨壊死（まれ）を引き起こす可能性があります。気管支の炎症が生じ、咳を伴い、気管支肺炎の発作が頻繁に起こることがあります。 有機リン酸塩の塩類については試験されていないが、遊離酸アミノトリス（メチレンホスホン）酸の動物試験では、体重の減少、肝臓、脾臓、腎臓の重量の変化が見られました。

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

HIP（機器保護付きハイドリム洗浄液）	毒性		刺激性	
	吸入 LC50: > 20 mg/L		なし	
	経口 LD50: >500 mg/kg		なし	
	経皮 LD50: >5000 mg/kg		なし	
(1-ヒドロキシエチルピリジン)ビスホスホン酸テトラカリウム	毒性		刺激性	
	経口（ラット）LD50：520 mg/kg[2]		なし	
キシレンスルホン酸ナトリウム	毒性		刺激性	
	経口（ラット）LD50: > 10 mg/kg[2]		目：有害作用（刺激性）が観察されました[1]	
			皮膚：有害作用は観察されませんでした（刺激性なし）。[1]	
1-オクチル-2-ピロリドン	毒性		刺激性	
	経皮（ウサギ）LD50: >2000 mg/kg[1]		目：有害作用（刺激性）が観察されました[1]	
	経口（ラット）LD50：2050 mg/kg[1]		皮膚：有害作用が観察されました（腐食性）[1]	

凡例：	1.欧州ECHA登録物質から得られた値 - 急性毒性 2製造元安全データシート（SDS）から得られた値特に指定のない限り、RTECS-化学物質有害影響登録（Register of Toxic Effect of chemical Substances）から抽出されたデータ
(1-ヒドロキシエチルピリジン)ビスホスホン酸テトラカリウム	ATMP（ニトリロトリス（メチレンホスホン酸））とその塩の場合： ATP酸は、一ナトリウム塩と六ナトリウム塩は重篤な眼刺激を引き起こしますが、二ナトリウム塩から五ナトリウム塩は眼刺激を引き起こしません。pHが低いことから、ATMP酸は目だけでなく皮膚に対しても強い刺激性や腐食性を持つことが予想されます。 急性毒性:動物では、ATMPの急性毒性は低いです。 感作性:動物データとヒト暴露報告に基づき、ATMPは皮膚感作性に関して分類されていません。反復暴露後の毒性:未分類。 遺伝毒性 / 突然変異を引き起こす可能性:ATMPとその塩は遺伝毒性や突然変異を引き起こしません。発がん性の可能性:ATMPナトリウム塩と酸は、発がん性があるとは予想されていません。 生殖毒性:動物実験に基づき、ATMPとその塩は生殖毒性を引き起こしません。
キシレンスルホン酸ナトリウム	アルキル硫酸塩;アルカンスルホン酸塩およびα-オレフィンスルホン酸塩の場合 このカテゴリーの化学物質のほとんどは、定義された物質ではなく、異なるアルキル側鎖を持つ同族体の混合物です。共通の物理的および/または生物学的経路は構造的に類似した分解生成物を生じ、これらは界面活性剤特性とともに、環境中での類似した挙動およびヒトの健康に関する本質的に同一の危険性プロファイルの原因となります。 急性毒性:これらの物質は経口摂取後によく吸収されますが、皮膚からの浸透性は低いです。吸収後、これらの化学物質は主に肝臓に分布されます。 動物の場合、経口摂取による中毒の兆候には、嗜眠、毛の逆立ち、運動量と呼吸数の減少、下痢などがあります。皮膚接触による中毒は、炎症、振戦、強直間代性痙攣、呼吸不全、体重減少を引き起こしました。C-12-アルキル硫酸ナトリウム塩が最大の効果をもたらしました。 眼刺激性テストでは、10%以上の濃度でアルキル硫酸塩を含むC-12は強い刺激性を示し、角膜に不可逆的な影響を与えました。アルキル鎖の長さが増加するにつれて、刺激性は低下し、より長い鎖を持つ化合物は軽度の刺激性しか示しません。 動物実験では、アルキル硫酸塩およびC14-18α-オレフィンスルホン酸塩による皮膚感作性は観察されていません。しかし、ラウリル硫酸ナトリウムが肺の感作を引き起こし、過敏性気道機能障害や肺アレルギーを招き、疲労感、倦怠感、痛みなどを伴うという事例報告があります。曝露による顕著な症状は2年以上持続することがあり、排気ガス、香水、受動喫煙など様々な非特異的な環境刺激によって誘発される可能性があります。空気中に浮遊するスルホン酸塩が呼吸器アレルギーの原因となり、場合によっては軽度の皮膚アレルギーを引き起こすこともあります。特定のスルホン化界面活性剤との反復的な皮膚接触は、感受性のある個人において皮膚炎症および感作を引き起こしました。 反復投与毒性:肝臓は反復暴露によって影響を受ける唯一の臓器と思われ、肝酵素値の上昇、肝臓重量の増加、肝細胞の肥大が見られます。 遺伝毒性:アルキル硫酸塩およびアルキルオレフィンスルホン酸塩は、突然変異や遺伝毒性を引き起こすようには見えません。 発がん性の可能性:動物実験の結果、アルキル硫酸塩およびα-オレフィンスルホン酸塩には発がん性がないことが示唆されました。 生殖毒性:動物実験において、これらの物質は母体に毒性を示す濃度でのみ、胎児および/または子孫に有害な影響を与えました。 発達毒性:アルカンスルホン酸塩は発育には毒性がないと考えられています。 代表的なトルエン、キシレン、クメンスルホン酸塩（ナトリウム塩、カリウム塩、アンモニウム塩、カルシウム塩を含む）については、毒性学データが入手可能であり、十分に文書化されています。これらのデータは、ハイドロトロプはすべての経路において毒性が低く、遺伝的損傷を起こさず、長期の皮膚研究において発がん性の証拠がなく、先天性欠損症、発育不全、生殖能力の低下を引き起こしていないことを示しています。
1-オクチル-2-ピロリドン	この物質は目に強い刺激を与え、顕著な炎症を引き起こす可能性があります。刺激物に繰り返しまたは長期間さらされると、結膜炎を起こすことがあります。 この物質は、長期間または反復的な曝露後に重度の皮膚刺激を引き起こす可能性があり、接触により皮膚の発赤、腫脹、水疱形成、鱗屑、および皮膚の肥厚を生じさせる恐れがあります。繰り返し曝露すると、重度の潰瘍を引き起こす可能性があります。

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

急性毒性	✓	発がん性	✗
皮膚刺激性/腐食性	✗	生殖能力	✗
深刻な目の損傷/刺激	✓	STOT - シングルエクスポージャー	✗
呼吸器または皮膚感作性	✗	STOT - 反復暴露	✗
変異原性	✗	誤嚥の危険性	✗

凡例：✗ - データが利用不可、または分類基準を満たしていません - 分類に必要なデータが利用可能です
✓

第12項 生態学的情報

毒性

HIP（機器保護付きハイドリム洗浄液）	エンドポイント	試験期間（時間）	種	値	ソース
	なし	なし	なし	なし	なし
(1-ヒドロキシエチリデン)ビスホスホン酸テトラカリウム	エンドポイント	試験期間（時間）	種	値	ソース
	なし	なし	なし	なし	なし
キシレンスルホン酸ナトリウム	エンドポイント	試験期間（時間）	種	値	ソース
	EC50	72時間	藻類やその他の水生植物	~252mg/l	2
	EC50	48時間	甲殻類	>400mg/l	1
	NOEC(ECx)	72時間	藻類やその他の水生植物	40mg/l	2
	EC50	96時間	藻類やその他の水生植物	>=230mg/l	2
1-オクチル-2-ピロリドン	エンドポイント	試験期間（時間）	種	値	ソース
	NOEC(ECx)	840時間	魚	0.91mg/l	2
	LC50	96時間	魚	~17.8mg/l	2
	EC50	72時間	藻類やその他の水生植物	9.27mg/l	2
	EC50	96時間	藻類やその他の水生植物	6.2mg/l	2
	EC50	48時間	甲殻類	7.59mg/l	2
凡例：1より抜粋UCLID 毒性データ 2.欧州ECHA登録物質-生態毒性情報-水生毒性 4.米国環境保護庁(EPA), 生態毒性データベース - 水生毒性データ 5.ECETOC 水生有害性評価データ 6.NITE（日本）- 生物濃縮データ 7.経済産業省（日本）- 生物濃縮データ 8.ベンダーデータ					

残留性および分解性

成分	粘り強さ:水/土壌	粘り強さ:空気
1-オクチル-2-ピロリドン	低	低

生物蓄積性

成分	生物蓄積
1-オクチル-2-ピロリドン	低 (LogKOW = 3.3314)

土壌中での移動性

成分	移動性
1-オクチル-2-ピロリドン	低 (Log KOC = 1593)

HIP ULTRA（機器保護付きハイドリム洗浄液）

第13項 廃棄に関する考慮事項

廃棄物処理方法

製品 / 包装 廃棄	▶ 容器は空の状態でも、科学的な危険をもたらす可能性があります。 ▶ 可能であれば、再使用/リサイクルのために供給業者に返却してください。 ▶ 可能であれば、ラベルの警告およびSDSを保持し、製品に関するすべての通知を遵守してください。
	廃棄物処理に関する法律は、国、州、地域によって異なる場合があります。各ユーザーは、それぞれの地域で運用されている法律を参照しなければなりません。一部の地域では、特定の廃棄物の追跡が義務付けられています。 管理措置の階層化が一般的であるようです - ユーザーは以下の点を調査する必要があります：
	▶ 削減 ▶ 再利用 ▶ リサイクル ▶ 廃棄処分（すべて失敗した場合）
	この材料は未使用の場合、または汚染されて本来の用途に適さなくなった場合を除き、リサイクルが可能です。汚染されている場合は、ろ過や蒸留などの方法で製品を再生できる可能性があります。
	▶ 可能であれば容器をリサイクルするか、認可された埋立地に廃棄してください。

第14項 輸送情報

ラベル必須

海洋汚染物質	いいえ
--------	-----

陸上輸送 (DOT):危険物の輸送は規制されていません

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR):危険物の輸送は規制されていません

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee):危険物の輸送は規制されていません

14.7.1. MARPOL附属書II及びIBCコードに基づくバルク輸送

該当なし

14.7.2. MARPOL附属書VおよびIMSBCコードに基づくバルク輸送

製品名	グループ
(1-ヒドロキシエチリデン)ビスホスホン酸テトラカリウム	なし
キシレンスルホン酸ナトリウム	なし
1-オクチル-2-ピロリドン	なし

14.7.3. IGCコードに基づくバルク輸送

製品名	船舶の種類
(1-ヒドロキシエチリデン)ビスホスホン酸テトラカリウム	なし
キシレンスルホン酸ナトリウム	なし
1-オクチル-2-ピロリドン	なし

第15項 規制情報

物質または混合物に固有の安全、衛生、環境に関する規制/法律

(1-ヒドロキシエチリデン)ビスホスホン酸テトラカリウムは、以下の規制リストに記載されています。

米国有害物質規制法 (TSCA) - 化学物質インベントリ

カナダ非国内物質リスト (NDSL)

キシレンスルホン酸ナトリウムは、以下の規制リストに記載されています

米国有害物質規制法 (TSCA) - 化学物質インベントリ

カナダにおける全DSL物質の分類決定

カナダ国内物質リスト (DSL)

カナダ毒性学情報サービス - 職場有害物質情報システム - WHMIS GHS

1-オクチル-2-ピロリドン以下の規制リストに記載されています

米国有害物質規制法 (TSCA) - 化学物質インベントリ

カナダ国内物質リスト (DSL)

その他の規制情報

該当なし

連邦規制

1986年スーパーファンド改正再認可法 (SARA)

第311/312 危険度分類

可燃性（ガス、エアゾール、液体、または固体）	いいえ
圧力下のガス	いいえ
爆発的	いいえ
自己発熱	いいえ
発火性（液体または固体）	いいえ
発熱性ガス	いいえ
金属腐食性	いいえ
酸化剤（液体、固体、気体）	いいえ
有機過酸化物	いいえ
自己反応性	いいえ
水と接触すると可燃性ガスを発生します	いいえ
可燃性粉塵	いいえ
発がん性	いいえ
急性毒性（暴露経路を問わない）	はい
生殖毒性	いいえ
皮膚腐食性または刺激性	はい
呼吸器感作性または皮膚感作性	いいえ
深刻な目の損傷または炎症	はい
特定標的臓器毒性（単発または反復暴露）	いいえ
誤嚥の危険性	いいえ
生殖細胞変異原性	いいえ
単純窒息剤	いいえ
他に分類されない危険有害性	いいえ

米国EPA CERCLA 有害物質および報告対象数量（40 CFR 302.4）

報告なし

米国EPCRA 第313条 有害物質放出インベントリ（TRI）（40 CFR 372）

報告なし

その他の連邦規制情報

該当なし

州規制

米国カリフォルニア州第65号法案
報告なし

その他の州規制情報
該当なし

国家在庫状況

国家在庫	状況
オーストラリア - AIIC / オーストラリア非産業用	あり
カナダ - DSL	なし（1-ヒドロキシエチリデンビスホスホン酸テトラカリウム）
カナダ - NDSL	なし（キシレンスルホン酸ナトリウム; 1-オクチル-2-ピロリドン; アルコール類C12-14エトキシ化プロポキシ化）
中国 - IECSC	あり
ヨーロッパ - EINEC / ELINCS / NLP	なし（アルコール類C12-14エトキシ化プロポキシ化）
日本 - ENCS	あり
韓国 - KECI	あり
ニュージーランド - NZIoC	あり
フィリピン - PICCS	あり
アメリカ - TSCA	あり
台湾 - TCSI	あり
メキシコ - INSQ	なし（1-ヒドロキシエチリデンビスホスホン酸テトラカリウム; 1-オクチル-2-ピロリドン; アルコール類C12-14エトキシ化プロポキシ化）
ベトナム - NCI	あり
ロシア - FBEPH	なし（1-ヒドロキシエチリデンビスホスホン酸テトラカリウム）
凡例:	あり = CAS登録済みの全成分が在庫リストに記載されています なし = CAS登録成分のうち1つ以上が在庫リストにありません。これらの成分は免除される場合もあれば、登録が必要となる場合もあります。

第16項 その他の情報

改訂日	2024年10月16日
初回日付	2015年11月9日

その他の情報

SDSは危険有害性情報伝達ツールであり、リスク評価を支援するために使用されるべきです。報告された危険が職場やその他の環境においてリスクとなるかどうかは、多くの要因によって決まります。リスクは、エクスポージャーのシナリオを参照して決定されることがあります。使用規模、使用頻度、および現在実施されている、あるいは利用可能な工学的管理措置について考慮しなければなりません。

Chemwatch社のAuthoriTeにより提供されています。